



## 2021年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年1月29日

上場会社名 株式会社 魚力  
 コード番号 7596 URL <https://uoriki.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理部長  
 四半期報告書提出予定日 2021年2月12日  
 配当支払開始予定日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東  
 TEL 042-525-5600

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年3月期第3四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	23,748	2.5	1,046	16.2	1,246	20.6	853	21.8
2020年3月期第3四半期	23,160	5.7	901	28.7	1,033	5.8	700	25.0

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 1,387百万円 (55.0%) 2020年3月期第3四半期 895百万円 (14.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	61.16	
2020年3月期第3四半期	50.61	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第3四半期	19,414	15,265	78.6	1,093.56
2020年3月期	17,073	14,381	84.1	1,030.04

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 15,253百万円 2020年3月期 14,365百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		18.00		18.00	36.00
2021年3月期		18.00			
2021年3月期(予想)				30.00	48.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

2021年3月期(予想) 期末配当金の内訳 普通配当18円00銭 記念配当12円00銭(創業90周年記念配当)

配当予想の修正につきましては、本日(2021年1月29日)公表いたしました「配当予想の修正(創業90周年記念配当)に関するお知らせ」をご参照ください。

### 3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	30,800	0.3	1,280	12.1	1,500	12.9	950	19.0	68.11

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- |                    |     |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更         | : 無 |
| 会計上の見積りの変更         | : 無 |
| 修正再表示              | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期3Q	14,620,000 株	2020年3月期	14,620,000 株
期末自己株式数	2021年3月期3Q	671,463 株	2020年3月期	673,663 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期3Q	13,947,641 株	2020年3月期3Q	13,835,352 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(セグメント情報) .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、実質GDP成長率が前期比プラス5.3%（年率換算プラス22.9%）となった第2四半期に続きプラス成長が見込まれております。しかしながら、11月以降、新型コロナウイルス感染症拡大第3波の到来を受けて経済活動抑制の動きが強まり、景気の持ち直しは緩やかなものとなりました。なお、1月7日の首都圏1都3県を皮切りに緊急事態宣言が再度発令されるなど、景気の先行きは予断を許さないものとなっております。

水産業界におきましては、国内での魚離れの進行、多くの大衆魚の不漁、海外における魚食の拡がりによる仕入価格の上昇など、当社を取り巻く経営環境は厳しさを増しております。一方、地球的規模において地上からの供給に代わるタンパク質の供給源として、また、国内外において拡がる健康志向などから、養殖業を含む水産業、また、水産物に対する注目度は高まっております。

このような経営環境の中、当社グループにおきましては、中期経営計画（2018-2020年度）の下、「現場の活性化・従業員満足の向上」をめざし、営業・仕入、新規事業、人材、財務といった各事業分野における基本戦略に取り組んでまいりました。

特に、新型コロナウイルス感染症拡大への対応について、売上が伸びない中でも営業利益を確保できるよう、店舗ごとの人員再配置、店舗運営の一層の効率化などによる経費削減、他方、本社におけるリモートワークの一部導入などの取り組みを行ってまいりました。併せて、感染症拡大の防止に十分配慮しながら営業の継続・強化に努力してまいりました。

このような中、当社では日常生活に不可欠な食料品を取り扱っていることなどから、4月をボトムとして既存店客数が回復し、また、まとめ買いの傾向も見られ、6月以降各単月の既存店売上高前年比が100%を超え、第3四半期連結累計期間の既存店売上高が102%となるまでに業績が回復いたしました。

この間、小売事業で3店舗、飲食事業で4店舗を出店した一方、小売事業で4店舗、飲食事業で1店舗を退店し、当第3四半期連結累計期間末の営業店舗数は88店舗となりました。

この結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間の売上高は237億48百万円（前年同期比2.5%増）、営業利益は10億46百万円（前年同期比16.2%増）、経常利益は12億46百万円（前年同期比20.6%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は8億53百万円（前年同期比21.8%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### ①小売事業

小売事業では、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、郊外立地店舗の一部が売上げを大きく伸ばす一方、ターミナル立地店舗を中心に客足が鈍ったため、店舗ごとの新たな繁閑状況に応じ店舗人員を再配置するなどの対応を行いました。また、「生活応援特売」フェアを行うなど仕入・営業が緊密に連携し全店を挙げて品質の高い商品を競争力のある価格で提供できるよう努めました。更に、東京魚市場買参協同組合を通じた販売促進事業、また、農林水産省の国産農林水産物等販売促進緊急対策「#元気いただきますプロジェクト」に参加するなど出荷量減少や価格下落の影響を受けた漁業者の支援に取り組みました。

新店は、2020年6月にJR亀戸駅に隣接する「アトレ亀戸」内に「亀戸店」（東京都江東区）、9月に渋谷駅に隣接する「渋谷マークシティ イースト」内に「渋谷 東急フードショー店」（東京都渋谷区）、12月に都営地下鉄大江戸線光が丘駅に隣接する「光が丘 IMA中央館」内に「光が丘店」（東京都練馬区）を開店しております。一方、東急百貨店東横店の営業終了に伴い、2020年9月に「渋谷東急東横店」「渋谷サーモンスクエア店」「渋谷魚河岸店」及び「かげん渋谷東急東横店」（いずれも東京都渋谷区）を退店しております。

この結果、売上高は211億80百万円（前年同期比0.3%増）、営業利益は12億84百万円（前年同期比30.6%増）となりました。

#### ②飲食事業

飲食事業では、緊急事態宣言以降4月から5月に亘り一部を除く店舗が休業を余儀なくされましたが、6月から7月にかけて順次、新型コロナウイルス感染症拡大対策を講じたうえで営業を再開いたしました。しかしながら、8月には感染者急増による東京都の営業時間短縮要請がありました。もとより、居酒屋業態を中心に飲食店が敬遠される消費者の動向により売上高は大きく影響を受けました。

新店は、アフターコロナを見据え競争力のある立地、条件を得られる物件に出店する方針から、2020年7月にJR立川駅に近い複合施設「GREEN SPRINGS」内に「魚力 鮭 GREEN SPRINGS店」（東京都立川市）、10月にゆりかもめ線竹芝駅に隣接する「アトレ竹芝店」内に「Bluefin by UORIKI店」（東京都港区）、12月に都営地下鉄大江戸線光が丘駅に隣接する「光が丘 IMA中央館」内に「海鮮魚力光が丘店」（東京都練馬区）、池袋駅に隣接する「東武百貨店池袋店」内に「海鮮魚力池袋店」（東京都豊島区）を開店しております。一方、限られた資源の効率的な活用を図るため、2020年7月に「築地魚力郡山店」（福島県郡山市）を退店しております。

この結果、売上高は3億75百万円(前年同期比33.3%減)、営業損失は2億7百万円(前年同期は営業損失8百万円)となりました。

### ③卸売事業

卸売事業では、子会社の魚力商事株式会社が外食チェーンを中心とした取引先に加え、当社が行っていた国内スーパーマーケットへの卸売を担うよう営業体制を集約いたしておりますところ、新型コロナウイルス感染症拡大により米国への輸出が一時的に停滞するなどの影響を受けましたが、スーパーマーケット、地方荷受、株式会社最上鮮魚(持分法適用関連会社)など国内向けの売上を伸ばしております。

この結果、売上高は21億43百万円(前年同期比49.6%増)、営業利益は87百万円(前年同期比224.6%増)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### (資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は100億87百万円となり、前連結会計年度末に比べ13億円増加いたしました。これは主に受取手形及び売掛金が19億52百万円増加したことによるものであります。固定資産は93億26百万円となり、前連結会計年度末に比べ10億40百万円増加いたしました。これは主に投資有価証券が8億20百万円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は194億14百万円となり、前連結会計年度末に比べ23億40百万円増加いたしました。

### (負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は41億21百万円となり、前連結会計年度末に比べ14億63百万円増加いたしました。これは主に支払手形及び買掛金が10億72百万円増加したことによるものであります。固定負債は26百万円となり、前連結会計年度末に比べ7百万円減少いたしました。これは主に退職給付に係る負債が7百万円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は、41億48百万円となり、前連結会計年度末に比べ14億56百万円増加いたしました。

### (純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は152億65百万円となり、前連結会計年度末に比べ8億84百万円増加いたしました。これは主にその他有価証券評価差額金が5億33百万円、利益剰余金が3億50百万円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は78.6%(前連結会計年度末は84.1%)となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、現時点において2020年7月31日の「2021年3月期 第1四半期決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,144,148	4,626,730
受取手形及び売掛金	2,285,561	4,238,250
商品及び製品	227,371	308,623
原材料及び貯蔵品	7,635	7,687
その他	122,563	906,873
貸倒引当金	-	△646
流動資産合計	8,787,279	10,087,518
固定資産		
有形固定資産	1,192,597	1,585,997
無形固定資産	23,577	21,228
投資その他の資産		
投資有価証券	5,136,538	5,956,543
その他	1,933,626	1,762,820
投資その他の資産合計	7,070,165	7,719,364
固定資産合計	8,286,340	9,326,590
資産合計	17,073,620	19,414,109
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,032,274	2,105,018
未払法人税等	356,221	130,140
賞与引当金	236,668	123,734
その他	1,033,633	1,763,060
流動負債合計	2,658,797	4,121,954
固定負債		
退職給付に係る負債	9,372	2,230
その他	24,000	24,000
固定負債合計	33,372	26,230
負債合計	2,692,169	4,148,184
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,563,620	1,563,620
資本剰余金	1,466,286	1,466,656
利益剰余金	12,782,664	13,133,574
自己株式	△971,178	△968,005
株主資本合計	14,841,392	15,195,844
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△465,491	67,607
為替換算調整勘定	△2,375	△2,983
退職給付に係る調整累計額	△8,300	△6,893
その他の包括利益累計額合計	△476,167	57,730
非支配株主持分	16,225	12,349
純資産合計	14,381,450	15,265,924
負債純資産合計	17,073,620	19,414,109

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
売上高	23,160,695	23,748,928
売上原価	13,851,375	14,317,400
売上総利益	9,309,320	9,431,528
販売費及び一般管理費	8,408,295	8,384,743
営業利益	901,025	1,046,785
営業外収益		
受取利息	49,379	59,179
受取配当金	72,903	80,492
補助金収入	-	177,424
持分法による投資利益	4,640	38,086
デリバティブ評価益	-	1,312
その他	10,742	25,477
営業外収益合計	137,666	381,974
営業外費用		
支払利息	155	-
為替差損	5,256	6,550
漁業者支援緊急対策費	-	175,905
営業外費用合計	5,412	182,456
経常利益	1,033,278	1,246,303
特別利益		
投資有価証券売却益	169,378	69,383
特別利益合計	169,378	69,383
特別損失		
固定資産売却損	12	-
固定資産除却損	8,258	20,143
投資有価証券売却損	68,518	23,290
投資有価証券償還損	7,291	-
賃貸借契約解約損	4,200	-
特別損失合計	88,280	43,434
税金等調整前四半期純利益	1,114,377	1,272,253
法人税、住民税及び事業税	321,715	341,611
法人税等調整額	85,795	76,599
法人税等合計	407,510	418,211
四半期純利益	706,866	854,041
非支配株主に帰属する四半期純利益	6,677	1,024
親会社株主に帰属する四半期純利益	700,189	853,017

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益	706,866	854,041
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	197,403	533,098
為替換算調整勘定	△1,233	△607
退職給付に係る調整額	△5,268	1,406
持分法適用会社に対する持分相当額	△2,164	—
その他の包括利益合計	188,737	533,897
四半期包括利益	895,603	1,387,939
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	888,926	1,386,914
非支配株主に係る四半期包括利益	6,677	1,024

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	小売事業	飲食事業	卸売事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	21,116,976	562,684	1,432,914	23,112,575	48,120	23,160,695	—	23,160,695
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	148,868	148,868	13,950	162,818	△162,818	—
計	21,116,976	562,684	1,581,782	23,261,443	62,070	23,323,514	△162,818	23,160,695
セグメント利益 又は損失(△)	983,543	△8,768	26,894	1,001,669	23,763	1,025,432	△124,407	901,025

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、テナント事業であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△124,407千円には、セグメント間取引消去△15,070千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△109,337千円が含まれております。全社費用は、主に総務・財務経理部門等の管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	小売事業	飲食事業	卸売事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	21,180,120	375,243	2,143,120	23,698,484	50,443	23,748,928	—	23,748,928
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	105,226	105,226	13,950	119,176	△119,176	—
計	21,180,120	375,243	2,248,346	23,803,711	64,393	23,868,105	△119,176	23,748,928
セグメント利益 又は損失(△)	1,284,941	△207,205	87,308	1,165,045	26,555	1,191,600	△144,815	1,046,785

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、テナント事業であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△144,815千円には、セグメント間取引消去△16,076千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△128,738千円が含まれております。全社費用は、主に総務・財務経理部門等の管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。